

# 取

三年

画数 8  
筆順

一 丁 耳 取  
シユ  
と 11 画

成り立ち



耳の形をあらわした「耳」と、手の形をあらわした「又」とを組み合わせて作った字です。

むかし、中国では、いくさでてきをたおすと、そのしようことして左の「耳」を切り取りました。それで、「耳」と「又」とで「とる」という意味をあらわしたものです。音の「シユ」は「手」の音「シユ」をあらわしたものです。

使い方

▽「名月を取ってくれるとなく子かな」というはいくがあるのを知っていますか？ 小林一茶という人のつくったはいくです。わたしも、きれいにすんだ月を取ってほしいなあと思ったことがあります。みなさんは、そんなことはありませんか？

▽この前の日よう日に、イチゴがりに行きました。取りたてのイチゴを、ミルクにひたして食べるのは、とてもすてきでした。いくつ取ったかわからなくなるほど、つきからつきへと取って、食べました。

熟語例

▽取得（自分のものにする。手に入れること。「そらばんの一級免許を取得した」などというふうに、つかいます。）

▽取捨選択（取るか、捨てるかの、どちらかをえらぶこと。「取捨選択にまよう」などというふうに、つかいます。）

▽取材（新聞やテレビなどの報道や、小説などを作るのに、材料をあつめて取りあげること。「新聞記者が取材に来た」などというふうに、つかいます。）

# 酒

三年

画数 10  
筆順

シ 酒 酒  
シユ  
さ け ・ さ か

成り立ち



酒を入れておくうつわ（酒がめ、または酒どっくり）

の形をあらわした「酉」と「シ」とを組み合わせて作った字で、「酒がめに入っている水じょうのもの」といういみの字で、「さけ」をあらわしました。

〔酉の音はユウで、油の容器である「由」と同じ音である。それは、「酉」も「由」も同じ容器だから、同じ発音の言葉であったのである。〕

「酒」の音は「水」の頭韻Sが「酉」に着いてシユウとなったものが短くなったものであり、「油」の音のユはシユがさらにつづまったものである。「酒」も「油」も、元は「シユウ」という言葉だったのである。〕

三三三

使い方

▽ぼくのおとうさんは酒が大好きです。特にビールがすきで、毎晩一本ずつ飲みます。時には日本酒を飲むこともあります。

▽うちの近くでは、お祭り時になると、いくつも酒だるが積まれます。おとなの人たちが、うれしそうに、お酒を飲んでいきます。

熟語例

▽飲酒（酒を飲むこと。「飲酒運転は危険ですから、絶対にはいけません」などというふうに、つかいます。）

▽美酒（おいしいお酒）

▽洋酒（西洋の酒。ウイスキーやブランデーなどです。これに対して、日本古来の酒を「日本酒」といいます。）

▽酒量（酒の量。特に、お酒を飲む量のことをいいます。「おとうさんは、お医者さんに、「酒量をひかえなさい」といわれました」などというふうに、つかいます。）

▽酒食（酒と食べ物。「酒食を楽しむ」などというふうに、つかいます。）

三三三

三年